

1. 本取組の実施背景

◆日本の高等教育における初年次教育の課題

日本の高等教育環境の急速なユニバーサル化に伴い、日本の大学でも急速に初年次教育の導入が進んでいる。しかし、いずれの大学においても「スチューデント・ソーシャルスキル」の悪化が進んでおり（山田,2009）、改善の課題を抱えている。一方で、「スチューデント・スキル」系の支援を実施している大学は少なく、実施している場合でも、その多くが課外プログラムである（田中,2014）。また、初年次教育として位置づけている比率も低い状況である（山田,2012）。

立石（2018）は、「成績不振学生等への支援は早期発見・初期対応的なものが主流を占めており、スタディスキルに関する取組や学習支援センターが提供する取組などは実施率が30%を下回っているため、未然防止的な観点からの支援の充実が課題である」と述べている。また、「支援における課題として『学生のモチベーション維持・向上』を挙げている大学が60%以上あり、わが国の課題として注視すべきである」と述べている。

◆本学における初年次支援について

立命館大学
学学生育成目標
(2018年3月2日制定)

学生は正課と課外全ての学生生活全体を通じて、『学びのコミュニティ』の中で相互に学び成長していく

本学では、大学全体としての目標である「正課と課外を通じた学生の自立と成長」に向けて、学生支援部門における初年次段階の専門的な支援体制を構築している。学生部の特性を活かした「スチューデント・スキル」の獲得支援と教学部門にも協力を得ながら「アカデミック・スキル」の獲得支援を総合的に実施し、全学生を対象とした正課・課外を包括した支援を充実させている。

2. 本取組の位置づけ・達成目標

◆本取組の位置づけ

- ・正課・課外をつなぐ新たな学生支援施策
- ・初年次段階を中心とした「大学での学修への適応（アカデミック・スキル）支援」
- ・学生部門による専門的な「学生生活への適応（スチューデント・スキル）支援」
- ・課外活動での学びを促進する成長支援

◆達成目標

学生「一人ひとり」が正課と課外すべての学生生活を通じて、
学びの主体として「自立」し、最大限の「成長」を遂げること

⇒ Student Success Program(SSP)

3. 本取組の特長

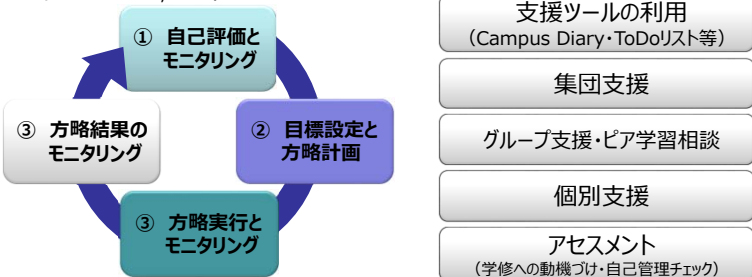
自立した学びの主体形成を目指す学生支援部門による、学生一人ひとりの特徴に合わせた「テラーメード型支援」

◆支援方法の特長

学生一人ひとりに応じた多層化した支援メニューを使って、「自立」と「成長」に向けたサイクルを回していく。

◆自己調整学習サイクル・モデル (Zimmerman,1996)

◆支援メニュー



◆支援内容の特長

入学前から卒業まで、支援が必要な時期に応じた適切な支援内容を提供。

集団	SSPのセミナー	年間を通して、学修や生活スキルを身につけるセミナーを開催	タイムスケジュール管理 ToDoリストの作り方 中だるみ対策 定期試験対策 など	月に1-4回 昼休み
小集団	学生サポーターの相談アワー	SSPピア・サポーターが学修方法など学生生活上の疑問を受け付け、相談に対応	学修方法などの相談 セミナーのフォローアップ	週1-5回 昼休み
個別	個別支援	SSPコーディネーターがそれぞれの課題を分析し、個別面談による支援	セルフチェックシート 継続的サポート	随時 予約制
	学修習慣アセスメント	現時点での自分を分析するシート 強み・弱みを知り、学修計画を立てることに役立てる	学修スタイルの分析 課題の把握	
目的別	リーダーシップ養成	クラブ・サークルなどの課外活動で役立つリーダーシップ・マネジメントなどのセミナー	会計 組織運営 キャリア形成 など	不定期 開催

4. 学内の実施体制

SSPは、学生支援部門である「学生部」内で体制を構築しており、3キャンパス（京都・滋賀・大阪）の「学生オフィス」と「スポーツ強化オフィス」の4課にそれぞれSSP担当の専任職員を配置している。また、各キャンパスに1名ずつ資格（臨床心理士等）や学生支援経験があるスペシャリストを「学生支援コーディネーター」として雇用している。あわせて、SSPピア・サポーターを雇用し、学生・院生自身の経験を活かした学生目線での支援も実施している。

そのほか、各学部（15学部）と定期懇談会（学期毎）を実施し、学部による学生相談からのつなぎ方や小集団授業等での講座の周知、支援学生のフィードバックを行っている。また、課外活動団体との連携した支援として、部長・顧問等へのSSPの周知・講座案内、公式戦出場基準と連動した支援を行っている。

◆4つの学内ネットワークによる支援システム



◆SSPの支援実施体制

- ・学生部副部長（教員役職者）
- ・専任職員
- ・学生支援コーディネーター
- ・SSPピア・サポーター

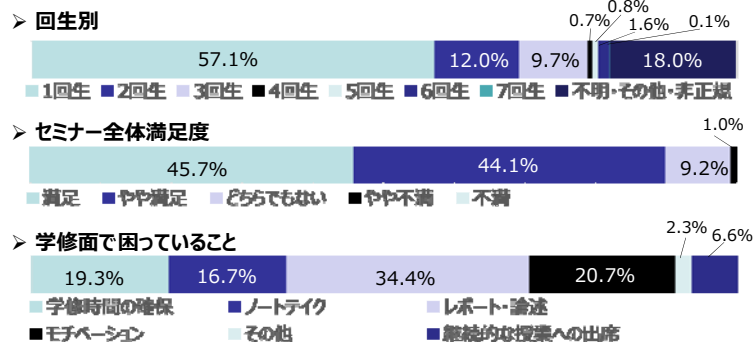
◎SSPピア・サポーター学生とは

SSPにおける企画プログラムの運営補助や学生相談会の運営等を担う。有給であるため、面接による厳正な選考を経て採用。採用後も所定の研修を受講することで支援の質を保証している。→2018年度：30名在籍

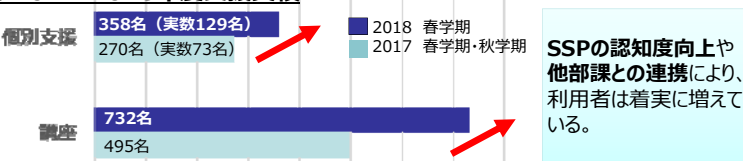
5. 本取組の成果

2018年度春学期（4～7月）に実施した全6講座（①新入生向け、②高回生向け、③ノートテイク、④モチベーションアップ、⑤定期試験対策、⑥レポート）には、732名と多数の参加があった。スチューデント・スキル系に対するニーズが予想以上に高く、特に1回生からのニーズが高いことが伺えた。また、内容としては「モチベーションアップ」「学修時間の確保」の順にニーズが高かった。参加者の満足度が高いことや利用者数が大幅に増加したことからも、学生のニーズに合った支援を提供することができていると考える。

◆2018年度春学期の講座参加者の内訳およびアンケート結果について



◆2017・2018年度支援実績



SSPの認知度向上や他部課との連携により、利用者は着実に増えている。

6. 今後の課題

◆支援対象者と利用者の乖離

SSP利用者の現状は、「単位僅少学生」もしくは「成長意欲が高い学生」の二極化している状況である。利用していない多くの学生は、自分自身の問題や課題を早期に発見できていない（気付いていない）。今後は、未然防止を視野に入れた「支援の必要性を学生自身に気付いてもらう仕組みづくり」が必要である。